

# 「グローバル・ビジョン」 テープベースとテープレスでのディレクター作業フローの顕著な違い

## テープベース 作業時間：15～20日間

海外ロケに持参する編集機材、周辺機器  
なし

### 収録素材の翻訳作業

2～3日間  
テープREC素材での作業。収録素材マザーを何度も巻き戻し・早送り・再生するため、マザーテープの劣化の懸念がある。全素材を翻訳する時間はないのでOKテイクを探し出して翻訳するが、カメラ再生機能をそのまま使用するので、ストレスと時間がかかる。結局翻訳したい箇所すべてを翻訳することは出来ず、帰国後の本格的な翻訳作業に頼ることになる。でも現地で行わないよりは良い。

### デジタル会社にデジタル作業を依頼

2日間  
HDDと収録素材40本を持ち込み、デジタルを依頼。ディレクターは、「作業待ち」になる。テープの物量が多いので、専門業者に任せる。

### 翻訳作業再開：本格的な翻訳作業

4～5日間  
グローバルビジョンの仕上げは1テーマ毎なので、全収録素材40本中、8本分くらいの素材を翻訳にかける。デジタルされたものを基に、素材を見ながら翻訳家とチェックする。1テーマ分の素材翻訳時間を凝縮すると1日くらい。5テーマで5日間。

### オフライン編集：開始

7～10日間  
本格的なオフライン編集を開始。

### ブロック試写：1回

1テーマで3カ国分のブロック部分を試写する。

### 一本化試写：2回

一本化した映像を試写。全体構成、番組展開をチェック。

### クライアント試写：2回

完尺にほぼなっている状態で試写。

### ポストプロ作業

#### HD本編集EED：3～5時間

ミニDVにハキ出した画完パケを持参し、HDCAMに立ち上げる。画完を立ち上げたHDCAMを出しにして、MAにかかる放送フォーマット HDCAMマザーを作成。テロップ入れなどは行わない。

#### MA作業：8時間 整音→BGM/SE貼り付け→ナレーション録り→MIXDOWN→戻し

#### HD本編集EED修正、納品フォーマット本編集：3時間

MA時に見つかった誤りテロップの修正、補足テロップなどを追加後、局への納品用HDCAM（正副テープ）にプリント。

局へ納品

## テープレス 作業時間：7～11日間

海外ロケに持参する編集機材、周辺機器

- ・ MacBook Pro 15" 2.16GHz (MODEL No.A1260) × 1台
- ・ 1TBもしくは2TBのLacie d2 Quadra Hard Disk × 1台

### 収録素材の翻訳作業・OKテイクの確認・素材取込み・荒編

2～3日間  
**現地ホテルの部屋にオフライン編集室が誕生**  
現地にて翻訳作業をスタートさせる。ファイルベースだとメリットが多い。MacBook Proで閲覧するのでOKテイクを探し出す手間がかからない。収録素材のバックアップがとれる。素材管理で安心。HDDを持参しているので収録素材取込み、デジタル作業が可能。OKテイクのシークエンス上での整理、Final Cut Proで荒編が可能。

### デジタル作業完了

1日間  
HDDを海外に持参しているうちにすべての素材をデジタルするわけではなく、ロケの後半素材などを帰国後にデジタルしたりする。マイペースに必要な素材を優先的にデジタルすることも出来る。

### 翻訳作業再開：最終段階の翻訳作業

1日間  
ディレクターは荒編した状態で、オンエアに乗せるべく最終翻訳の確認に入る。1テーマ分の翻訳確認の時間を凝縮すると、5時間くらい。5テーマで1日分くらい。

### オフライン編集：まとめ

3～6日間  
すでに荒編が済み、それに合わせて最終翻訳の確認を行った後なので、オフライン作業も「映像をつなぐ」作業というよりは「内容を詰める」作業に集中。

\*以下、テープベースと同じ。ここから後半の作業は、費やす時間やコスト面で変化はない。

現地

帰国後